

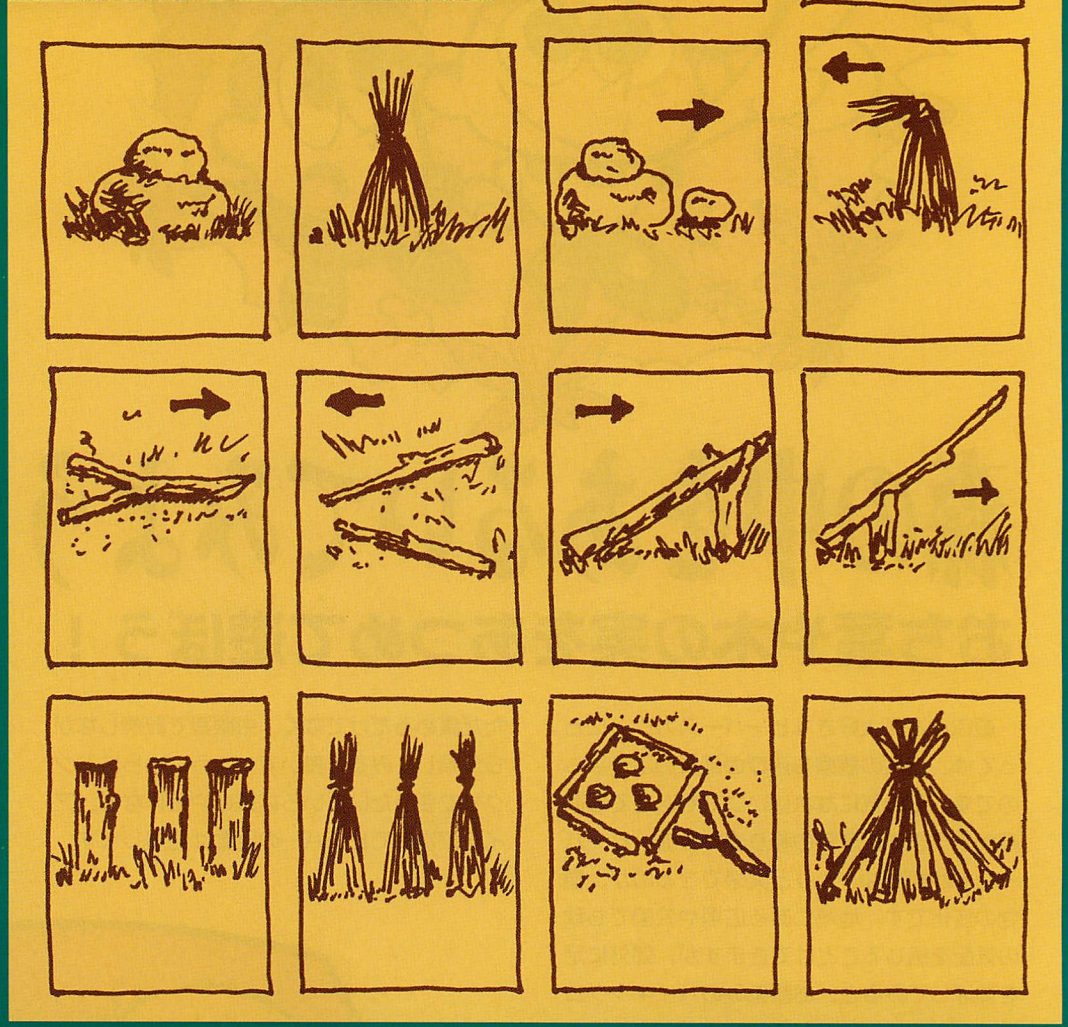


## 追跡サインカード

追跡サインにはどんなものがあるのか、カードを使って覚えよう。持ち歩いているノートや手帳に貼っておくと良いかもしれません。

森の中でどれだけたくさんのかんごを発見できるかは、きみたちの注意力と集中力にかかっている。一生懸命になって探せば、いろいろなものが見えてくることでしょう。

追跡サインは意味を理解しなくては役に立ちません。右の各カードに描かれたイラストの下に意味が合うように、意味を記した文字を切って貼って「追跡サインカード」を完成させてください。



矢印の示す 方向へ進め	矢印の示す 方向へ進め
矢印の示す 方向へ進め	矢印の示す 方向へ進め
この道を まっすぐ	この道を まっすぐ
行くな	帰った
危険	危険
3歩先に 手紙あり	よいキャンプ サイトあり
この先 目的地遠い	この先 目的地近い

# TRACKING

### 動物の足跡の例 (「スカウティング・フォア・ボーイズ」より)



運動会の時などにライン引きに使われる石灰を靴底につければ、白い足跡がつけます。これを利用して運動公園や広場で追跡ゲームをしましょう。出題者側の3~4人のスカウトを選びます。事前に回答側のスカウトに靴底の形状をよく見ておいてもらいます。決められた範囲で、出題者のスカウトが歩いたり、走ったり、ケンケンをしたりします。回答側は誰がどのコースをどういう順番で通ったかなどを足跡を追って推理します。証拠のビデオを撮影しておいて検証してみると、一目でわかりとても面白く、盛り上がります。

## 追跡サインを覚えよう

スカウトが森を進む時、後からその道を通る仲間のために、役立ついろいろな情報を伝えるのが追跡サインです。石を積みんだり、枝や草でちょっとした細工をしたりといったものです。スカウト以外の人なら見落としてしまうかもしれません。ある意味、仲間だけに通じる暗号とも言えます。カブ隊のみんながサインを覚えれば、ハイキングの時に利用できるかもしれません。いつも活動をしている集会場の周辺や、広場、空き地などで追跡サインを残す組とそれをたどる組とに別れて練習することができます。



# 森の動物となかよしに 自然の中の小さな「サイン」を見落とさない

カブスカウト隊でハイキングに出かけるのはとても楽しいものです。森の中を探検しながら、小動物や昆虫について、自然の営みについての知識を増やしていきましょう。もし、動物の足跡を見つけることができれば、たどって行って忍び寄り、自然のままの姿を観察できるかもしれません。学校で習ったり、本で調べる場合とは違って、実際に自分で見出したことはその発見の喜びも大きく、忘れにくいものとなります。自分で観察すると、森の動物に対する疑問や興味もより明確になります。

きみたちがハイキングする日本の森では、大型の野生動物は少なく、滅多に出会うことはありませんが、地域によっては、シカ、ウサギ、リスなどの姿を見ることができます。きみたちが歩いている足元をじっくりと調べてみると、タヌキやキツネなどの小動物のフンを見つけることができます。さらに良く観察してみると、それに木の実や動物の毛が混じっていたりします。その近くではエサとなる木の実や皮などを動物が食べた跡が残されているのを見ることができます。

森の中に入った時は、そこにどんな動物が暮らしているのか想像してみるとよいでしょう。きみ自身が動物になったつもりで、視線を低くしてみましょ。地面に顔を近づけることで、草木はどのように見えるでしょうか。ひょっとしたら、きみたちが歩いている道と

は別の、森で暮らす動物たちだけが知っている秘密の通路を発見できるかもしれません。

足跡、フン、エサの食べカス、あるいは数本の抜けた毛など、あらゆる小さなものが「サイン」となります。カブスカウトにとって大切なのは、どんなサインも見落とさないようにすることです。そのためには、森の中でまじめにしっかりと観察する練習をしなくてはなりません。そしてそのサインが示す意味についても推理できるようになれば、きみはもう森の技能の達人です。きっと動物の気持ちがわかるようになり、動物からも好かれ、知らず知らずのうちに動物を引き寄せる不思議なパワーを身につけることができるでしょう。



## 動物モノマネゲーム 声帯模写&形態模写

動物を大好きになり、動物の習性を理解しようと思えば、その動物の姿や動き、表情、鳴き声などを覚えて、マネをしてみるのが一番かもしれない。モノマネの練習を繰り返して自信がついたら、クイズ形式で何の動物のモノマネをやっているのかを当てっこするゲームをやってみると面白いでしょう。チーム分けをして対抗戦にしてもよいし、「木に登って、木の実をかじるリス」「友だちとケンカして鳴いているクマ」などのようにモノマネの題を複雑にしていけるのもよいでしょう。家で犬、猫、ハムスター、小鳥などを飼っている人は、日頃からできるだけ仲良くして、特徴を勉強してみてください。

